

Covid-19 関連 海外情報 No.2 「地域における高齢者」

新型コロナウイルス感染症が世界各地の高齢者に大きな影響を与えています。

このシリーズは、欧米先進国の地域の中で生活する高齢者がどのように活躍し、また高齢者へのサポートが行われているのかを中心に、国際長寿センターの海外ネットワークを生かしながら緊急に届いている情報を提供するものです。

シリーズ第2弾は、国際長寿オランダセンターの母体であるライデンアカデミー(ライデン大学内の高齢者センター)が運営する、高齢者が自分のストーリーを語り、お互いに刺激を与えるためのプラットフォーム「Wij&corona(私たちとコロナ)」より9人のストーリーを本人の許可を得て紹介します。

オランダ

(オランダ ライデンアカデミーのホームページより)

コロナウイルスは、私たちの公の生活を大きく凍結させます。お互いの距離を保ち、特に当面家にいるという方策は、私たちの生活を大きく変えています。

オランダの高齢者はこれらの例外的な時間をどのように経験しているのでしょうか？彼らは何を心配し、何が彼らに希望と快適さを与えて、一日をどのように過ごしているのでしょうか？

Wij&corona では、彼らのストーリーを収集し、経験を共有するステージを高齢者に提供します。

* 「Wij&corona (私たちとコロナ)」は、国際長寿センターオランダセンターの母体であるライデンアカデミー(ライデン大学内の高齢者センター)が運営する高齢者が自分のストーリーを語り、お互いに刺激を与えるためのプラットフォームである。以下は電話インタビューによる高齢者の実際の暮らしの一端である。

私はカジノが恋しい、カジノは私の毎日の娯楽でした

Dick (99)、Den Haag 在住、一人暮らし、シニア複合施設に居住

日常生活

私は少し弱ってきています。まもなく 100 歳になります。シニア複合施設の近くの大きな庭で、毎日カートを使って歩き、疲れると日陰に座って休みます。涼しいときは、太陽の下でも座ります。さらに、私は毎日エクササイズバイクに乗り、できるだけ運動するようにしています。

私はまだ人に話しかけています。最近、新しい友人ができました。彼はオーストラリア出身のインド人の少年です。また、複合施設に入所している知人は言ってくれました：「何か必要なものがあるときは私に知らせてくださいね。私はまだ通りの向かいのショッピングセンターに行く勇気がありませんから。」彼女が私のためにそのようなことをしてくれるのは素晴らしいことです。



複合施設にいて退屈

今は何もすることがないときは本当に退屈です。することといえば新聞を読んだり、パズルをしたりで、午後からは休んでいるばかりです。

私は毎日午後 5 時にテレビの電源を入れて、料理番組で今日何を調理しているのか見てみます。その番組が終わると、食事をして、あらゆる種類のニュースを見るためにチャンネルを 1 に切り替えます。午後 9 時 30 分にテレビを消し、就寝時刻となります。

オランダのカジノは閉鎖中

カジノが恋しいです。それが私の唯一の日常の娯楽でした。毎日トラムとバスを利用して Scheveningen に行きました。そこに知り合いがいて、運が良ければ 300 ユーロと 500 ユーロのジャックポット(大当たり)を 2 回獲得しました。そのお金を使って、あらゆる種類のおいしいものを購入しました。知り合いに「肉屋に行って赤身のステーキ肉(kogelbiefstuk)を 1 ポンド買ってきてくれよ」と言ったものです。米とバターグレービーを少し加え、手で食べるが最高！

食べる

食べることは重要です、自分自身を養う必要があります。Albert Heijn 社の調理済みの食事はそれほど悪くありません。じゃがいもにバター、ナツメグ、クローブ、玉ねぎを加えて炒めると美味しくなります。私はこの食事を数週間食べ続けています。スープも自分で作ります。私は鶏肉のナックル(肉を煮込んだ後に炒める料理)を調理し、肉を取り除いてスープに入れます。または、チキンス

ープの缶に数種類の野菜と米を少し入れます。

お父さん部屋にいて！

コロナは恐ろしい、致命的な病気です。

部屋には木曜日に掃除婦だけが来ます。しかし、彼女は私の部屋に着く前に私が部屋に在室していないことを確認するし、私は彼女が掃除を終えて確実に部屋から出て行ったことを確認するまでは戻ってきません。これは私の 2 人息子のアドバイスでもあります。子どもたちは「お父さんは部屋にいて、誰も人を連れてこないで」と言います。その通りにしていますが、静かです。

Story 2

電話はまだできますが、妻は非常に矛盾した話をします

Pieter (82)、Den Haag 在住、既婚

妻との別れ

一年半前、妻は認知症がひどくなり老人ホームに入所し、もう家にいません。あるとき彼女は台所へコーヒーを淹れに行きました、私が様子を見ていたところ、彼女はコーヒーカプセルを直接カップに入れ、熱湯を注いでいたのです。(本来はフィリップス社のコーヒーマーカーにセットして淹れる)老人ホームに妻を入所させる際はひと悶着ありました。彼女は私に「あなたは私に何をしているの！」と責めました。ああ、君は家にいるよりもこの方が本当に良いんだよと私は思いました。



老人ホームが(新型コロナのために)外部の訪問者の面会を禁止するまで、私は週に2回妻を訪ねていました。今は行けなくて寂しいです。

よいケア

金曜日の正午から2時の間に、老人ホームのロックされたドアのところで洗濯物を持って帰ることができます。妻と電話で話すことはまだ可能ですが、彼女が言うことは非常に矛盾しています。どうしているかと尋ねると、彼女は「仕事が順調に進んで今終えたばかりだから、これから休息するつもり」と言います。ケアスタッフは、彼女はもういろいろ分からなくなっており、認知症が進行していると私に説明してくれました。

彼女はホームで元気にしていますが、家にいるときのようなケアをすることはできません。彼女は数人のグループと一緒に生活をしていて、ケアを受けています。毎日皆と一緒に楽しいアクティビテ

イをしています。リビングルームにはマネージャーがいて、作り立ての食事を毎日用意してくれます。それで私は安心してしています。

私は子どもたちと話し合っ、彼女に何かが起こった場合、もはや蘇生措置をしないことに決めました。それは難しい決断であり、私が彼女を失うことを意味します。

日常生活

私は、コンピューターでハーグのシニアニュースのビデオ編集に 1 日を費やしています。それは楽しいことで、1 日乗り越える方法です。以前はたくさんの録音をしていましたが、コロナ危機のためにそれはもう不可能です。現在は、主にアーカイブからフィルムレコーディングを利用しています。毎日の生活のための仕事もしています。これは継続させます。

予防策

高齢者介護は少し後回しになっています。ロッテルダムで亡くなった方の最後のメッセージを見ると、ショックを受けてしまいます。ここにはいつ来るのでしょうか。

私はコロナを恐れていませんが、予防策をとっています。大きなスーパーに行くときは、プラスチックの手袋をしています。他の人がいったん物を取って、それを元に戻し、それから私がそれを取るということも起こります。だから、少し注意が必要です。家に帰ったら、私は食料品を置き、大きなティッシュを使ってそれらを取り出して食器棚に入れます。次に、手袋とティッシュを捨てて手を消毒します。私はコロナを恐れてはいませんが、私の周りで何が起っているのかわかりません。私は清潔にしていますが、問題は「他の人もそうしているのでしょうか？」

Story 3

しばらくすると、私は 2 歳のときと同じ数のカールができます

Wil (76)、Uithoorn 在住、既婚、退職

多すぎる

コロナのために生活に明らかに変化があります。私には本当にさまざまな計画がありました。今すぐ調整する必要があります。私はまだ時間通りにベッドから出て、新聞を読んでいます。ニュースが多すぎて、TV は以前より早く消します。

考えること: 私はあれをしなければならぬ…。私はあれを見る必要がある…。これは不可能ではない…。あちこちにメッセージや花を持って行く…。その後、思考はストップします。



技術にこだわる

私たちは家にいるだけでなく、自転車に乗ったり、妻と散歩したり、スポーツをしたりしています。親戚に会ったり、孫に会ったりはしていません。しかし孤独に苦しむことはありません、まだたくさんの連絡を取る方法があります。WhatsApp や Skype を含め、私たちはたくさん連絡をします。私は必要に迫られ、それらの使い方をマスターしようと思いました。今それができて嬉しいです。しかし、時々技術的なことで立ち往生します。解決方法を見つけ出さなければならず、グーグルで検索します。しかし、それでもうまくいかないことがあります。

プライバシー

私はコロナ感染者を検出するためのアプリ開発に賛成です。人々は常にプライバシーを気にしていますが、正しく理解していれば十分に保護することができます。しかし、多くの人はそれを信用していません。しかし、Facebook を使っているなら、あなたも半分公開しているのではないですか？

繁殖しすぎないように

私は 50 年間趣味で純血種のウサギのブリーダーをしており、それを諦めていません。毎日自転車に乗って世話をしに行きます。いまでも行っています。少しだけ作業をして、きちんと整えます。散歩をして、サイクリングを少ししてから、電話をかけます。それは順調ですが、展覧会はすべて中止されています。

ウサギは繁殖しすぎないように注意しなければなりません、増えすぎると辛いことになります。彼らは肉屋に行くことになってしまいます。

はしごに乗らない

私は 76 歳ですが、36 歳のときから走っています。ウォーキングのルートがあり、私は週に 2 回、約 5.5 キロ歩きます。私はトレッドミル(ウォーキングマシン)も持っています。隔週で妻と一緒に適切な距離を歩きます。もちろん、この状態を維持する必要があります。

また、家族と家の中の作業をし、家を引っ越す子どもたちの手伝いをしました。常に何かしたいことがあります、今では許可されていません。したいのですが、今は他の人に任せるべきです。それは非常に不幸なことで、悩みます。私の家は塗装する必要がありますが、私は一番高いところの作業を行うことはできません。妻がはしごの上に立つことを望んでいないのです。

床屋

幸い、私には経済的な問題はありません。何でも行うことができます。いまの懸念は、健康を維持し、少しでも社会的でいることです。必要に応じて誰かのために買い物もします。80 歳の隣人に食べ物を時々持って行きます。彼女は自分で作ることもできますが、ありがたいことに受け入れてくれます。しかし、それ以外の場合、まったくひどい状態です。人々はもはや医者に行くことを敢えてしません。あらゆるものがキャンセルされます。医師との面会もキャンセルされました。そして床屋も。しばらく散髪をしないと、私は 2 歳のときと同じくらい髪がクルクルにカールされてしまうのです。

Hans (80) Oegstgeest 在住、従事、引退、作家

自分のための時間

私の婚約者 Ingrid はうちから 200 メートルのところに住んでいます。私たちは多くの時間一緒にいて、いつも一緒に食べて寝ています。しかし、時々自分自身のための時間を持つようになっています。友人は誰もやってきません。息子の Taco が時々スープの鍋を持ってきたり、ドアにカバンを掛けて素敵なバターケーキをくれたりします。私の孫娘は最近 16 歳になったので、宅配で贈り物をしました。おかしなやり方ですが。



チューリップの野原

毎朝 30 分ジョギングをします。歩数計をつけて、毎日 7 千歩以上歩きたい。だいたい 5 キロです。時々私はその目標を達成するために夕方少し出かけます。また、よく自転車に乗っています。最近では、チューリップの野原を 20 km サイクリングしました。私はチューリップが大好きです。現在は美しくとても静かで、観光客のバスはなく、簡単に道路を横断できます。

喫煙パイプ

Ingrid の知人はコロナ感染者を収容している病院に入院しています、私は少し前に行われた誕生日会でその人の隣に座っていたことがあります。誰もがウイルスを持っている人を知っています。英国の首相でさえ ICU にいます。私はリスクグループに属しています。

Albert Heijn(スーパー)か魚屋から帰宅すると、Ingrid はすぐに私の手を洗います。彼女は看護師で、私をとて注意深く見てくれます。また、いまはパイプを吸うのをやめるべき時だと言いますが、それは難しいことです。

ぐらぐらする膝

私はサッカーがとても恋しいです。私は Ajax の大ファンです。これからどうなるのでしょうか？私は Eindhoven の市長に賛成で、無観客でも試合をするのはいけないと思います。サポーターが集まるのでその群衆は避けたいです。しかし、すべての欠点には利点があります。日曜日はもうサッカーで緊張しなくなりました。ぐらぐらする膝でスポーツを見なくていいので、安心です！

ボートの絵のカード

毎週、私はナーシングホームにいる友達の Dick を訪ねていました。もう行きません。私は今、

Dick を含む家族や友人にかなりの数のカードを送ります。ポートが書かれている素敵なカードに、彼が外出できない中でどうしているかを尋ねます。私は時々彼に電話します、彼は少し混乱していますが、いつもとても陽気です！ Dick には 94 歳の母親がいて、息子にいつもジュースを届けています。彼女はそれを正面玄関で渡さなければなりません。

若者向けの本を読み直す

私は若者向けの本を読み直しています。Karl May の Winnetou(インディアン物語)、Fulco de Minstrel(歴史ロマン)、Het Slot op den Hoef の中世後期について書いた本で、Dik Trom が有名です(以上は少年文学である)。老後、人は再び子どもになります。私はこれらをとても楽しく読みました。私は 12 歳のころ、そのような美しい本を書く決心をしたことをよく覚えています。私の最新の本、『David Castorp の乱れた生活』は、Bol.com で良いレビューを受けましたが、売上はまだまだです。今はスピノザについて書きたいと思っています。『エチカ』の中で、彼は「陽気さは常に良い」と書いています。それは誰でも知っていることで、哲学的なものではありません。あるスピノザの専門家は彼の作品の核心を「それは来る時には来る」と要約しました。いまの時期に印象的な発言です。

政治家

Rutte 首相は賞賛されています。彼は本当によくやっていると思います。彼はとても知識が豊富なので、チームには PvdA(労働党)メンバーも含まれます。それはとても特別なことです。私自身は、長年 D66(社会自由党)のメンバーです。最近、彼らは私に花束をくれて、美しい若い女性によってドアまで運ばれて来ました。それだけでその団体に参加するのに十分な理由です。

短い記憶

コロナ危機が収束を迎えた時、私は考え方の変化があることを願っています。今回は多くの人が考えさせられました。人は欠乏の中でも非常に幸せになることができます。同時に、私たちは忘れやすいのです。テラスやカフェがまた開かれると…特に若い人たちは、そこに身を投じると思います。

Story 5

一日中部屋着のままではダメ！

Nancy (74)、Nijmegen 在住、ボランティア

物理的な接触

オランダが閉鎖される前、私はひどい風を引いていました。熱は出なかったのですが、子どもたちは私がコロナに感染したのではないかと心配していました。今、彼らは私のために買い物を済ませ、玄関の前に置いていってくれます。

私は家族、友人等との物理的な接触を避け、電話で頻繁に話をしています。しかし、子どもがいない高齢者や友人が少ない人にとっては、孤独を解消することは非常に難しいことです。



空っぽの通り

外の通りは毎日空っぽで、とても奇妙な光景です。今は毎日が週末のようで、罪悪感なしに朝はゆっくり起きています。しかし、私は日中の過ごし方に計画性をもたせようと考えました。私は今ちょうどシャワーを浴びて、服を着がえ、自分自身をシャキッとさせたところです。一日中部屋着のままでははいけません。

私は読書が大好きなので、今はたっぷり読書タイムを過ごしています。そして、テレビでニュースや記者会見をチェックし、庭の草むしりをします。それから、毎日1時間のウォーキングやサイクリングに行きます。その後、私はターゲットを絞った目的を果たしに行きます。例えば、私はレントの堤防の上でサイクリングをし始めました。以前そこに住んでいたの、懐かしく思いました。

私がいなくなった場合に備えて

子どもたちは私が亡くなる時にどうして欲しいかと聞いてきたので、今考え始めています。昨年、義理の息子と一緒に手配する必要があるもののリストを作りました。かなりの量になったのでそれを入力する必要があります。しばらくは必要ないかと思っていましたが、より身近なことになりました。コロナに感染したり、息をしていなかった場合にして欲しいことは、すぐに見つけられるようにしておくつもりです。

困難な時間を過ごしている人

私の妹は老人ホームに入所しています。義弟は、妻である彼女を訪問することができません。妹はそれをとても悲しんでいます。妹は義弟に1日5回電話をかけ、彼がいつ来るのか尋ねています。

また、私がオランダ語を教えているシリアのご夫婦の元を訪れることができません。しかも彼らの子どもたちはヨーロッパ中に住んでいて、今は彼らに会えずにいます。

Story 6

日常の「すること」が阻害されている

Jeltje (82)、Voorschoten 在住、未亡人、独立して暮らしている

対処

スーパーに来ると驚きます。近所の人たちが私にも助言したり話しかけてきたりしますが、あんなことは大嫌いです。

私は注意して、1.5メートル離れたところにいるようにしています。おしゃべりは延々と続き、コロナに関する一方的なニュースに偏っています。他には何もないようようです。再び戦時中のような気がします。



訪問禁止

私はまだ多くのことを行っています。買い物、庭の手入れ、散歩やサイクリングもほぼ毎日します。しかし同時に、今までしてきたことがかなり減ってしまいました！例えば、老人ホームでのフラワーアレンジメントのボランティアグループの活動が休止になりました。老人ホームにいる93歳の友人を訪問することができなくなりました。私の隣人とはもう一緒に歩きません。さらに、知的障害のある孫娘への毎週の訪問はすでに禁止となりました！私はすべてのルールによって非常に抑制され、私の「すること」が阻害されていると感じています。

難聴

それでもいくつかの小さな選択肢はあります。定期的に友人と電話で話したり、一人で散歩をしたり、孫娘と一緒に画像を作ったりすることはできます。しかし、老人ホームに入所している友人はひどい難聴なので、電話も難しいのです。

延期

私は今病院に行かずにいるコロナに感染した若者や他の症状を持つ患者を心配しています。また、ますます開いているお店が少なくなっていますが、私はわざわざそこに行ったり電話をかけたりしません。そんなことをしたらますます再開が遅くなります。

誕生日

今日は私の誕生日でしたが誰も招待しませんでした。来たい人のために私はドアを開けておきます。子どもたちを頼りにしているので、とにかくケーキは入手できると思います。個人的には、私はコロナを恐れていません。もし私の番だというなら、覚悟はできています。私は今82歳で、夫は去年の夏に亡くなりました。それ以来、私にとって必要なものは何もなくなったのです。夫がまだ老人ホームにいて、彼に面会することができなかつたらと思うと…。恐ろしい！

私は何かで死ななければならない

Truus (85)、Den Haag 在住、インフォーマルケアを受けている

外食できない

私の生活は落ち着いていて、それほど変わっていません。外出はできませんが、子どもたちや(ひ)孫たちとデジタルで会っています。今日はちょうど私の誕生日なのに、みんな夕食に出かけることができません。これは非常に不幸で退屈なことだと思います。

しかし、私は自分の心配はしていません。何週間も無収入で過ごしている人々にとって、今は非常に不確実な時期だと思います。そして、これから解放されたとき、再び感染拡大が起こらないかと疑問に思います。



隣人の料理人

88歳の夫は私の介護をしてくれています。さらに、週に3日料理をしてくれる隣人がいます。それ以外の日は、何かを注文するか、配食サービスが来ます。隣人は私の夫が食料品の買い出しのために外出することをもはや許しません。それで、彼は今私たちの世話をしてくれているのです。

宿命

コロナに感染するかどうかは宿命です。人は何かで死ななければなりません。85歳では、期待することはあまりありません。ただ、私はコロナに感染しても病院に行きたくないのです。息苦しくなるかもしれませんが、私を病院に連れて行く必要はありません。私は家で眠って回復を待ち、それからまだ外出できるかどうか様子を見ます。

終末の物語

私は新聞やテレビの報道にイライラすることがあります。すべての報道がこの「終末の物語」に夢中になっているからです。それによってより人々の不安を煽っているだけです。イライラするとテレビを消すのですが、やはり何が起きているか知りたくなり、結局はすぐにまたつけてしまいます。

買いため

あまりにも利己的なので私は買いためをする人に憤っています。彼らは自分で考えず、メッセージに感化されやすいのです。人が買いためしているから私もしなくては！と。そして最後にケアスタッフが店にやってきても彼らのためには何も残っていないのです。

Netty (74)、Den Haag 在住、Leo と結婚

ボランティア団体「高齢者趣味の会 (De Laakse Lente)」創始者

ジグザグ

本当に恐ろしい時期です。非常に不気味で静かです。私は感染が怖いのです。私はリウマチに苦しんでいます。今朝、Algemeen Dagblad 紙のカメラマンがインタビューに来ました。振り返ってみると、私たちは 1 フィート半しか離れていなかったことに気づきました。常にそのことを意識しているのはとても難しいことです。

でも、私は今 Albert Heijn (スーパー) に行く場合、混雑した通りは通りません。それで私はまだ人々から少し距離を保つことができます。さもなければ、人を避けてジグザグに歩かなければなりません。



アップダウン

私たちはリビングルームで行う高齢者の趣味の会「De Laakse Lente (www.delaakselente.nl)」でいつも非常に忙しくしていました。毎朝 7 時から 7 時 30 分の間に起き、朝食を急いで済ませると、リビングルームを整え、トイレをチェックし、コーヒーのスイッチを入れました。午前 9 時に、最初の人はずでにドアにいます。月曜日と木曜日は特に忙しく、時には 20 人も人がいました。孤独を感じ、交流を必要とする人々です。午前中は飛ぶように過ぎ、多くのアクティビティが実施されました。午後になると、私はせっせと PC に向かってメッセージを打ち、それからケアホームにいる人々を訪問しに行きました。

そんな私たちのリビングルームは今、毎朝静かです。普段毎日来ていた人が今は来られません。私は毎日彼らに電話をしています。私は彼らが少しでも元気になる情報を伝えたいと思っています。

もちろん、私は子どもや孫、ひ孫と会いたいと思います。彼らは今、以前は入って来る事ができた私の家の窓の前で手を振っています。また、私はアプリを通じて子どもたちと多くのコンタクトを取っています。

自分の意見

私はコロナ危機についてテレビで多くのことをチェックしていますが、すべての否定的な話に影響されてはならないと思っています。私には自分の意見があります。私はガイドラインを遵守しようとしています。次に何が起こるか心配です。これは世界にどのような影響を与えるのでしょうか？インフ

ルエンザとして最初に新型コロナを却下したトランプ大統領は、今何が起きているか見てみなさい。中国、アメリカ、スペインなど、どこもあまりに悲惨です。

感謝

医療・介護職、消防隊、警察の方々にはとても感謝しています。非常に良い協力関係にあると思います。相互に感謝し合い、この協力関係が継続することを願っています。ルールを守れなかったり、一緒に我慢できない人々に憤慨しています。人々がお互い思いやることができると思っています。私たちは一緒に戦わなければならなりません。私たちはこの世界にともに生きているのです。

Story 9

聖書の七つの罪源の一つとしてのコロナ

Mieke (94 歳)、Utrecht 在住、未亡人、ナーシングホーム入所中

区域のコロナ

ホームの入居者のうち、この区域で私を含め 3 人がコロナに感染し、3 人のうちの一人の夫が先週亡くなりました。彼が死んだとき、奥さんは彼と一緒にいることができませんでした。彼女はコロナに感染しベッドに寝ていたので、彼の葬式にも出席できなかったのです。なんということでしょう！



部屋に隔離

ここは行き止まりです。私は自分の部屋に隔離され、スタッフとの接触しかありません。スタッフは皆優しくしてくれます。私は今、映像付きのスクリーンで、以前よりも頻繁に子どもたちや孫と電話で話します。私はまた、お気に入りのフォトカードをたくさん集めています。その他は今までとほぼ同じ生活です。どんな番組であつてもとにかくテレビを見ています。以前はスポーツをよく見ていましたが、今はほとんどやっていません。さらに、インコの鳴き声を聞いたり、新聞を読んだり、独り言を言ったり昼寝をします。私は車椅子に乗っていて、あらゆることに介護が必要です。とにかくどこにも行くところがありません。

娘の補足：母は以前は自分の部屋から出て、食事をするためにリビングに行ったり、商店や理学療法に行くことがありました。天気が良ければ、車椅子で庭に出たり、誰かに連れて行ってもらったりしていました。彼女は日光浴をととても楽しんでいました。今は、何一つすることは叶いません。そして、彼女は私たちに心配をかけたくないと思っています。いつもそうです。そして彼女自身は私たちのことをよく気にかけているのです。

歯痛を我慢する農夫のように

私が以前夫と一緒に入居していた老人ホームでは、まだ友人の輪がありました。あのホームは

消えてしまいました。ここにはあまり知り合いがいません。私はひどい難聴でもあります。リビングでの食事中、私はほとんど誰の話も聞こえなくても笑い返します。歯痛を我慢する農夫のようにひきつった顔で。最悪です。私は冗談を言って人々を笑わせることが好きなのに。それができるのは、今は姉妹だけです。それでも以前は食事をしながら、リビングルームで周りを見ていることができました。今は自室で食べています。それも独りで。特に子どもたちに会いに来てほしい。

娘の補足：母は、あらゆることに対して文句を言わず、おとなしくしています。彼女は若い時、ほとんど何も持たずに農場から出て来ました。彼女の口癖は、「満足すること以外、立ち向かうのは良くない」です。

私たちは祈る

さて、コロナについてですが、私たちはこれまで多くのことを経験してきました。多くの病気と死、戦争、それらを乗り越えてきました。私は 100 歳になっていませんが、そこまで生きていたいと思っています。私たち人間は過ちから学び、生活を改善する必要があります。それは人によって異なります。私たちは天気が良くなるよう祈るのです。

娘の補足：母は敬虔なカトリック信仰の家族の出身です。日曜日毎に 2 回教会に行っていました。彼らは貧しく、心配が絶えない生活を送ってきました。祖母は母を妊娠中に長男を亡くし、末の息子も出産後すぐに亡くしました。1930 年代には倒産、その後戦争が勃発。後半生は最重度の介護を必要とする夫の世話をしてきました。母はすべてのことに不平を言わずに過ごしてきました。彼女にとって、コロナは聖書の 7 つの罪源の一つなのです。

<https://wijencorona.nl/>